

# 都道府県教育委員会における障害者雇用**好事例集**

R3.10.12作成版

厚生労働省 職業安定局障害者雇用対策課

Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan

## はじめに

都道府県教育委員会における障害者雇用状況については、令和2年6月1日現在で雇用障害者数**13,156.0人**と増加傾向にある一方、47機関全体の実雇用率は**2.06%**と法定雇用率2.4%を大きく下回っており、法定雇用率を達成している機関も**15機関**（31.9%）という状況です。

今般、厚生労働省では、教育委員会における障害者雇用をより一層促進していくために、特に障害者雇用が進んでいる教育委員会を対象に、障害者雇用への取組に関する好事例を収集し、都道府県労働局及び都道府県教育委員会で共有することとしました。

また、今回収集した取組は教育委員会にとどまらず、他の公的機関及び民間企業においても、参考となる部分があると考えられることから、厚生労働省のホームページに掲載することとしました。

今後も、厚生労働省としては、こうした好事例も活用しながら、教育委員会をはじめとする公的機関及び民間企業の障害者雇用の促進に努めてまいります。

### 採用前段階における事例

- 採用枠、採用職種に係る検討 . . . . . 3

### 採用・配置段階における事例

- 募集条件等に係る取組 . . . . . 5
- 配置に係る取組・配慮等 . . . . . 5

### 定着支援における事例

- 職場での定着支援体制 . . . . . 7
- 具体的な配慮・支援内容 . . . . . 8

(参考) 今回好事例を収集した教育委員会に係る  
障害者雇用状況 . . . . . 11

# 採用前段階における事例

## ● 採用枠、採用職種に係る検討

### 三重

平成24年度から教育委員会事務局等で**業務補助職員として障がいのある方をモデル的に任用**し、事務補助や環境整備等の業務で活躍いただけるよう、公立学校における任用を拡充し、現在、学校業務支援員として公立学校に配置している。

平成30年度から、障がい者が働きやすい職場環境づくりに取り組むため「**三重県教育委員会障がい者雇用推進チーム**」を**設置**し、障がい者に対する理解促進や障がい者一人ひとりに応じた業務、勤務形態、相談体制等の職場定着の取組などについて協議を開始。

### 高知

**現場からの意見集約を基に検討**を行い、事務局では「事務補助」、学校では従来からあった「事務補助」、「用務補助」、「実習助手」、「寄宿舎指導員」に加え、盲学校では「点訳作業」に従事する職員を新たに採用した。

また、複数の特別支援学校では「用務補助」を清掃や新型コロナウイルス感染症対策（消毒作業）に専門的に従事させることで、教員の負担軽減を図っている。

教員における障害者の採用数を**内数から外数（障害者枠）にして**、定期的・安定的に採用できるようにした。

### 滋賀

障害者が就業できる業務について、**やりがい、生きがいなども考慮しながら検討を行った**結果、学校現場での障害者特別枠として、農場業務員、学校事務職員、学校業務員、事務補助員を採用し、県立図書館、県教育委員会事務局では障害者雇用求人として採用を行うこととした。

また近隣府県の情報収集はもとより、**先進的な教育委員会を視察**し、視察結果等を踏まえ、事務の集中化などについても検討を行った。

さらに、平成30年の法定雇用率引き上げに向けた対応として、障害者特別枠、採用人数を拡大してきたところ。

※ 学校では、①事務補助：文書整理、印刷・コピー、②業務員：清掃、剪定等（補助）、③農場業務：農作物の栽培、④家畜の飼育等（補助）の業務（職種）を会計年度任用職員として配置することとし、教育委員会内では障害者雇用求人として事務補助を会計年度任用職員として配置することとしている。

### 広島

県立学校や事務局単独施設においては、日常的な清掃や草取りなどの環境整備や図書の整理などの業務が十分に行えておらず、職員の負担となっている実態があったこと等を契機に障害者雇用を検討し、**職員が定型的に行っていた業務等を集約化**することにより対象業務を整理した。

# 採用前段階における事例

## ● 採用枠、採用職種に係る検討

### 熊 本

教員採用選考において、平成21年度から身体に障害のある者を対象とした特別選考を設け、例年8人の採用枠を設けている。

令和2年度選考から、「身体に障がいのある者を対象とした特別選考」に知的障害者、精神障害者を加えた「障がいのある者を対象とした特別選考」に変更して実施している。

障害者を対象とする熊本県職員採用選考試験では教育事務職員を採用しており（精神、知的障害者も対象）、例年3人の採用枠を設けている。

### 熊 本

事務局において、補助的・定型的な事務を扱うワークオフィスを設けるとともに、スクール・サポート・スタッフ配置支援事業（※）において、市町村立学校における教員の業務支援に従事する会計年度任用職員（※）として、障害者を優先的に任用することとした。

※ 授業以外の諸業務を補助的に行うスクール・サポート・スタッフを学校に配置し、教員の負担軽減を図ることで、教員が児童生徒への指導や教材研究等に注力できる体制をつくるもの。

※ 具体的な任用職種は以下のとおり。

- ・任用職種A（一般事務）  
パソコン使用によるデータ処理、台帳管理、各種アンケートの集計等。
- ・任用職種B（事務補助）  
封入作業、簡易なパソコン入力作業、定期的な事務補助等。  
（ワークオフィス）
- ・スクール・サポート・スタッフ（小中）  
授業で使用する教材等の印刷や物品の準備、教材・資料の整理、宿題等の提出物の受け取り・確認、小テスト等の採点補助、学校行事・式典等の準備補助、統計情報や校務支援システム等のデータ入力・名簿の作成補助、電話対応・来客受付、家庭への配付文書の印刷・仕分け等。
- ・学校補助員（県立）  
データ入力等の事務作業、校内実習等における補助的業務、農作物への灌水・散水、農場等の除草等。

# 採用・配置段階における事例

## ● 募集条件等に係る取組

### 埼玉

障害者特別選考について、教育職員においては平成23年度採用から一次試験の免除、平成26年度採用から年齢制限の緩和（50→59歳）、令和2年度採用から精神障害者を追加等の改善を行っている。

一般職員においては令和2年度採用から**すべての障害種別に対象を拡大**、年齢制限の緩和（35→59歳）等の改善を実施。

### 滋賀

教員採用試験（正規職員）に係る障害者特別枠については平成26年4月採用分から施行しているが、平成29年から、教員障害者特別選考の一次試験等においては「一般教養・教職教養」等の免除や、その他の受験上の配慮を実施している。

### 香川

従来は、人事担当課が異なるため別々に募集・採用試験を行っていた事務員・事務補助員と司書助手について、令和元年度からの募集に当たっては一括して募集・採用試験を行い、**併願を可能とし**、受験者の負担軽減と事務の効率化を図った。

## ● 配置に係る取組・配慮等

### 埼玉

障害特性に応じて以下の対応を実施

- ・手話のできる教員を同じ学級に配置〈特支・聴覚障害〉
- ・比較的身体に負担の少ない部活の顧問を担当〈高校・心臓機能障害〉
- ・体調不良等を考慮し教室の隣に休憩ができる部屋を設置、職員用トイレに手すりを設置〈中学校・下肢不自由〉

### 三重

学校業務支援員の配置にあたっては、職員の通勤手段や範囲、学校規模や職員の配置状況等を総合的に勘案している。

# 採用・配置段階における事例

## ● 配置に係る取組・配慮等

### 滋 賀

各学校で少なくとも1名は配置しており、学校の状況により、2～3名配置している。

### 岡 山

(知的障害者や精神障害者が増加していることに対して) 職員の理解や支援が得られやすい特別支援学校に複数名配置し、必要人数の確保と併せて定着支援を図っている。

また、聴覚障害がある職員のうち、聞き取りが可能な職員については、音量調整機能付き電話を設置し、聞き取りしやすい環境を提供している。

### 広 島

取組開始当初は募集段階において本庁総務課で人材バンクを設置し、登録申込があった場合、申込者の希望勤務地域や得意な業務などを勘案の上、学校に紹介する方法としていた。

### 香 川

採用された障害者が適切な環境で就業できるよう、障害者本人の希望、障害種別、配慮事項、住所地、想定される業務内容等を踏まえ、事前に各所属長等と調整の上、配置を行っている。

また、事務員・事務補助員と司書助手の一括試験（前掲）としたことで、障害種別や住所地を踏まえ、柔軟な配置が可能となり、職場定着につながっている。

肢体障害者については配置予定校を事前に見学してもらい、所属及び本人の了解のもと配置している。

# 定着支援における事例

## ● 職場での定着支援体制

### 埼玉

日常の業務進捗管理やサービス管理、体調面のケアに関しては、障害のある職員の上司や同僚が支援を行う。

また、教育局各課等および県立学校では心のバリアフリー推進員を所属職員から指定し、障害者理解のための意識啓発等の研修や働きやすい職場づくりの推進、障害のある職員からの相談等の対応を行っている。

### 三重

県独自の障がい者雇用トータルサポーターが、電話によるヒアリングや学校訪問を実施している。

### 滋賀

障害者の職場適応支援員（会計年度任用職員）を平成31年4月から学校へ配属（複数校を巡回担当）しており、障害当事者自身の困りごとや不適應等の課題が把握された場合には、障害当事者⇔現場の職員又は職場適応支援員⇔管理職と  
いった流れで対応している。

### 岡山

職場管理者が年4回面接を実施（年度当初の目標設定1回、人事評価2回、人事異動希望調査1回）しており、この際に希望する配慮事項がないか確認を行っている。

### 広島

各学校において、障害者からの相談や業務指示を行うキーパーソンを選定している。

また、本庁総務課に障害者雇用に係る相談窓口を設置し、職場、障害者本人及び家族からの相談等を受け付けるとともに、好事例の紹介や外部の支援機関との連携のサポートを行っている。

### 香川

障害者からの相談窓口を総務課、義務教育課及び高校教育課に設置し、障害者の方に周知している。

# 定着支援における事例

## ● 職場での定着支援体制

### 高 知

事務局主管課にワークステーションを設置し、各課から随時依頼を受け、事務補助等の業務を行っている。ワークステーションには、**支援員（教員OB）を配置**しており、支援員は仕事の割り振りや時間管理を行うとともに、障害のある職員の相談窓口の役割を担っている。年間300件程度と安定的な業務量を確保できており、正職員は政策立案等に集中できるようになった。

### 熊 本

各所属において、班長や人事担当者が相談を受けているのに加え、**採用担当者**が本庁に配置されている対象者を**不定期に訪問**し、声掛け等を行っている。

## ● 具体的な配慮・支援内容

### 三 重

**職員会議や校内研修**で障害者の人権や障害者雇用に関する説明及び周知を行うとともに、本人の意向を確認の上、職員会議等で他の職員と障害についての情報を共有した。

### 滋 賀

**業務のやり方の例を図式化（可視化）**して説明するようにしている。

また、活躍推進計画におけるワークエンゲージメント等の把握の中での**アンケートで障害当事者の状況を把握**している。

### 香 川

「障害者活躍推進計画」の履行状況点検検討部会において、事前に障害者に実施した**職場等の満足度に関するアンケート結果への対応を検討**するとともに、同部会に参加した障害者から**職場での配慮事項等を聴取**し、その中で対応が必要な内容があれば、検討・対応している。

対応例）長期療養の間、当該学校事務部長が親族及び主治医と連携し、復帰に向けた環境作りを行い、復帰につなげた。

# 定着支援における事例

## ● 具体的な配慮・支援内容

### 三重

- ・ 「作業内容をわかりやすくするシート」を作成し、業務の見通しを持ちやすくするとともに本人と支援者が相互に業務の進捗状況を確認できるようにしている。
- ・ いつもと違う業務を依頼する場合は、前日などの早い段階から本人の予定を聞いた上で依頼するようにしている。
- ・ 「業務日誌」を活用して、業務面や体調面等の悩みを把握している。
- ・ 通院等の日程にあわせて、事前に勤務日の割振りを行っている。
- ・ 勤務時間について、通勤する公共交通機関の時刻表に合わせて組んでいる。

## 〈参考〉作業内容をわかりやすくするシート

### 週間予定

	月	火	水	木	金	備考
午前	掃除・落ち葉掃除 ・ 寄宿舍 周辺 ・ 臨床室 周辺 ・ 体育館前 ・ 体育倉庫裏 ・ 門扉の掃除 ・ 除草 ・ 解剖準備室掃除	掃除・落ち葉掃除 ・ 寄宿舍 ・ 臨床室 ・ 体育館前 ・ 体育倉庫裏 ・ 門扉の掃除 ・ 除草 ・ 解剖準備室掃除	掃除・落ち葉掃除 ・ 寄宿舍 ・ 臨床室 ・ 体育館前 ・ 体育倉庫裏 ・ 門扉の掃除 ・ 除草 ・ 解剖準備室掃除	掃除・落ち葉掃除 ・ 寄宿舍 ・ 臨床室 ・ 体育館前 ・ 体育倉庫裏 ・ 門扉の掃除 ・ 除草 ・ 解剖準備室掃除	掃除・落ち葉掃除 ・ 寄宿舍 ・ 臨床室 ・ 体育館前 ・ 体育倉庫裏 ・ 門扉の掃除 ・ 除草 ・ 解剖準備室掃除	※ 雨天時 理療科棟 床掃除
	昼休み					
午後	・ 仕分け・括り物 ・ 給食室掃除 ・ トイレ掃除	・ 仕分け・括り物 ・ 給食室掃除 ・ トイレ掃除	・ 仕分け・括り物 ・ 給食室掃除 ・ トイレ掃除	・ 仕分け・括り物 ・ 給食室掃除 ・ 石鹸配り	・ 仕分け・括り物 ・ 給食室掃除 ・ トイレ掃除 (消毒)	

※ 困った事は、自分で決めず相談しましょう

### 給食室掃除

順番	作業項目	ポイント	備考
1	牛乳パック片付け	当日分の牛乳パックをケースの上に置く	
2	紙ごみ捨て	ゴミ箱の紙ごみを右側のポリバケツに入れ、新しい袋を入れる。	ゴミ袋は厨房勝手口に持っていく
3	ふきんで拭く	テーブル・ワゴン・乾燥機前の台 ポリバケツ横の返却台	返却台：スポンジに洗剤を含ませ拭き、 布巾で拭き、ペーパータオルで拭く
4	エプロン干し	調理室入口に干す	第二弾の洗濯物を行う (洗剤キャップ1杯・漂白剤キャップ1杯)
5	掃き掃除	椅子・生ごみ入れのポリバケツ・靴入れ等 どちらで掃く	ホウキ・チリトリは掃除道具入れに
6	モップ拭き	椅子・生ごみ入れのポリバケツ・靴入れ等 どちらで拭く	
7	洗濯物干し	ふきん5枚はテーブル横にかけ、残りは調理室置くに干す	<消毒液> 水： ペットボトル 1杯 漂白剤キッチンハイター 1杯
8	消毒	消毒用ふきんで取ってを拭く	
9	ペーパータオル補充		
10	アルコール補充		
11	生ごみを捨てに行く	厨房勝手口に回り、可燃ごみ捨て場に行く	
12	調理員室のコロコロ	畳の部分をコロコロクリーナーで掃除する	
13	冷蔵庫受け容器洗い	冷蔵庫下の容器に水が溜まるのできれいに洗う。	

# 定着支援における事例

## ● 具体的な配慮・支援内容

### 高 知

- ・事務職員が**毎日5分間質問を受け付ける時間を確保**している。
- ・業務の進捗確認・調整・相談を実施の上、仕事上手にいかない部分があり、しんどいという申し出があれば時間短縮を行い、慣れれば元の時間に戻した。
- ・人工透析が必要な職員に対して、勤務時間を短縮した。
- ・本人の申出により、事務補助から用務補助に業務内容を変更した。

### 熊 本

障害のある教職員への合理的配慮の提供に向けた取組として、平成29年度より、**各学校に対し障害のある教職員の業務遂行上の支障等の実態把握を依頼**している。

- ※ 学校現場での合理的配慮として、以下の対応を実施。
- ・校務分掌の軽減
  - ・通院しやすい職場環境づくり
  - ・エレベーターやスロープの設置
  - ・洋式トイレへの改修
  - ・職員会議でのマイク使用

## (参考) 今回好事例を収集した教育委員会に係る障害者雇用状況

	令和元年		令和2年	
	障害者雇用数	実雇用率	障害者雇用数	実雇用率
埼玉県	478.5人	1.58%	<b>740.5人</b>	<b>2.41%</b>
三重県	284.5人	2.29%	<b>310.5人</b>	<b>2.52%</b>
滋賀県	223.5人	2.38%	<b>250.5人</b>	<b>2.66%</b>
岡山県	263.0人	2.53%	<b>265.5人</b>	<b>2.54%</b>
広島県	261.5人	2.09%	<b>330.0人</b>	<b>2.59%</b>
香川県	159.5人	2.37%	<b>175.0人</b>	<b>2.61%</b>
高知県	150.0人	2.55%	<b>178.0人</b>	<b>2.65%</b>
熊本県	216.5人	2.27%	<b>274.0人</b>	<b>2.83%</b>

※ 各年の実績は6/1現在のもの  
 (埼玉県教育委員会の令和2年の実績は12/14現在のもの)